



打ち上げ花火800発
一瞬の美しさが、
記憶の中で永遠になる。

第6回
福智町

水と灯火の夕べ

日時

8月27日 土 19時開会

会場

彦山川・中元寺川合流点河川敷

問

福智町役場 総務課庶務係 ☎ 22-0555



※ 実際は盆踊り終了後に花火が打ち上げられます。

町長日誌

▼ 最近の政界の動きを見るにつけ、改めて、政治の世界は権力闘争の場であることを痛感させられる。同時に、いつも政治ドラマを見せつけられては、食傷気味にならざるをえない。しかも、社会的背景を考えると、東日本大震災で壊滅的被害を被った状況からの一日も早い復興を目指さなければならぬ時なのにな。国民の気持ちに寄り添った政治を行ってほしい——これは、誰もが望んでいることであり、不変の心理でもある▼しかし、現実的には国民感情とかけ離れたところで政治活動が展開され、事案の核心に迫った対応策が講じられても、機動性に欠けるケースが多々あるように思う。かつて、政治家の秘書をしていた時、マスコミに報道されない水面下での政治的駆け引きや綱ひきを、随分見聞してきた。それは、生臭いものばかりで、マックス・ウェーバーの言う「政治家は、時には悪魔と握手をしなければならない」を地で行く決着もあつたように記憶している。もちろん、主義・主張が異なれば、一定の合意を得るために、多少の時間と妥協が必要なのは理解できる。ただ、国家の存亡にかかる非常時には、自己の置かれている立場や思想を度外視して、ある目的達成に向け、一丸となる勇氣と決断が不可欠ではないか▼あの江戸城無血開城を導いた山岡鉄舟を評して、西郷隆盛は「カネもいらぬ、名誉もいらぬ、命もいらぬ人は始末に困るが、そういう男でなければ天下の偉業は成し遂げられない」と語っている。まさに、山岡鉄舟の去私奉公の志こそ、すべての政治家に求められているのではないだろうか。

浦田 弘二